五個荘コミセン歴史公開講座　第62回 歴史公開講座　**回覧**

近江の芭蕉

芭蕉は生涯980句の俳句を読んでいますが、近江で読んだ句は89句で、奥の細道の52句に比べても、近江の濃さが解ります！

また、県内には107基の芭蕉句碑が建てられ、近江人の芭蕉好きも認められます。

日時　令和6年9月15日(日曜日) 午後1時 ～ 午後2時半頃

場所　五個荘コミュニティセンター　二階 大会議室

TEL 0748-48-2737

小幡デコを守る運動の一貫として、同時に小幡デコの展示会を行います。

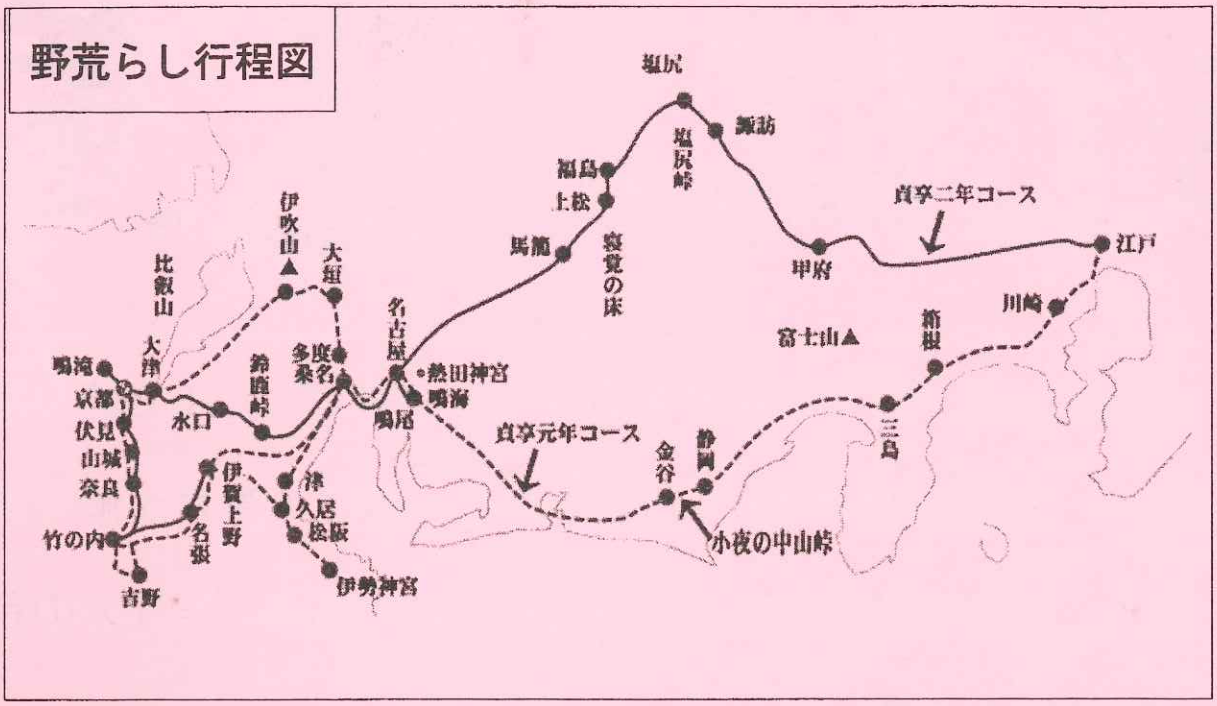
☆ 発熱・風邪症状のある方は、ご参加をお控えください。

☆ 筆記用具はご持参ください。

☆ コロナ・インフル対策は、個人の責任でお願いします。

五個荘コミセン歴史公開講座　連絡先 高野 勝次　TEL 0748-48-6628

辛崎の　松は花より　朧なり



貞享元年(1684 年)八月、40 歳の松尾芭蕉が門人 苗村千里を伴い、江戸深川の芭蕉庵を出立し、東海道を上って伊勢・伊賀・大和を経て、以後は単独で吉野、9 月下旬に美濃大垣、桑名・熱田・名古屋から伊賀上野に帰郷して越年、春の大和路をたどって京都へ出て、近江路から江戸への帰路のおよそ 8 ヶ月の紀行を題材とするのが「野ざらし紀行」です。

「辛崎の　松は花より　朧なり」は、この旅の途中、貞享二年の作です。湖岸の辛崎の松は、背後の山の桜よりさらに朧で、風情の深いものだとの内容です。

芭蕉は、伊賀上野で千里と別れ、吉野・奈良・伏見・京から大津に入り、堅田の本福寺(門人 三上千那が住職を務める寺院)で身体を休めている間に詠まれたと推定されています。

写真は、小幡町 537-2「厳島神社」内の芭蕉の句碑です。「八九間 空で雨降る 柳かな」元禄七年(1694 年)50 歳の芭蕉の句です